

**WHO upset over Indonesia's shift in avian flu reporting** CBC.ca, Canada (カナダ) W

**HO、インドネシアの鳥インフル患者公表方式の変更に当惑 2008/6/7**

6日、インドネシア保健相は、今後インドネシアでは鳥インフル死亡者が発生しても、即時公表はしないと発表した。―専門家によると、WHOが定めた世界の保健条約の柱となっている、“国際保健規則”に違反する政策となる。

さらに国際法の専門家は、インドネシアが6ヶ月に1度の死者数の発表という危険な行動に、自分たちの要求を賭けているとしたなら、それは危険なゲームであると警告している。

「インドネシアは今サイコロを転がしている。分離ウイルスの共有と、死者数の発表と二つの目が入ったサイコロだ」とインディアナ大学の米国と世界の安全保証研究センターのデービット・フィドラー氏は語っている。

「もしH5N1ウイルスが変異したなら、自分はそれがどこで起ころうが構わないが、その株はジャカルタ株として知られるようになるだろう。なぜならH5N1鳥インフル対策に必要な世界的警戒態勢に参加することに、インドネシアが抵抗したことを原因と皆が考えるからだ」。

フィドラー氏は、インドネシア保健相のシチ・ファディラ・スパリ女史が5日に発表したコメントに反応しようとしている。

保健相の発表は、インドネシアにおける鳥インフルの死者の発表は、同国のイメージを悪くすると共に、政府が鳥インフル対策に懸命に努力して得た成果や、対策の強化内容等を覆い隠してしまう弊害があることを示唆している。

「これらの死亡者を発表して、我が国にどれだけの得がある?」、とスパリ女史はインタビューの中で、AP記者に質問した。

2007年当初からスパリ女史は、WHOの世界インフルエンザ監視ネットワーク（世界中のインフルエンザ研究機関のネットワーク、WHOへの協力機関）との共同作業の量を大幅に減じた。ネットワークは人のインフルエンザウイルスを追跡していて、毎年のインフルエンザワクチンの適正な組成を各国に助言している。

センターはまた、パンデミックを発生するウイルスにも厳重な監視を続けていて、この5年間は、センターの大型レーダースクリーンに高度毒性H5N1ウイルスの拡大地域が映し出されている。

## インドネシアはウイルスの国際社会との共有を拒否

しかしながら、H5N1鳥インフルウイルスにどのような変化が起きているのか追跡しているWHOの労力は、昨年の初頭からインドネシアのウイルス提供拒否という行動によって妨害されている。スパリ女史は、インドネシアが提供したウイルスで製造される全てのワクチンが公正に、インドネシアとの間で共有されるまでは、ウイルスは提供しないと主張している。

このような論争の間でもインドネシアは、H5N1鳥インフル患者と死亡者に関する情報は発

表してきた。しかし今回の発表は、死者数に関しては後からまとめて発表するというものである。

WHOの報道官は、公式に政策の変更をインドネシアから伝えられていないが、保健相の発表の真偽を確かめている、と語っている。

「我々は報道された内容が、実際に同国の政策の変更を伝えているのか否かを確認したい」、とジュネーブのジョン・レインフォード報道官が語った。

上述インディアナ大学のフィドラー博士は、インドネシアは「国際保健規則」の妨害を意図しているのだらうと説明する。そのためにスパリ女史が脅しをかけていると考えられる。

国際保健規則（IHR）は、良く知られているが、世界的に危険な疾病と分類されている疾病が発生したときに迅速な報告を各国に要求している。2005年にIHRが改正された時、SARS、ポリオ、天然痘、鳥インフルの人での発病が注意すべき疾病として分類された。改正された規則はインドネシアを含むWHOの193加盟国で承認された。

保健規則では、新規H5N1鳥インフル患者が確認された場合、24時間以内に報告、そして死者が出た場合は、適時報告するように義務づけている。

年に2度の報告は、規則で決められている適時性には合致しない、とフィドラー博士は語る。

レインフォード博士もインドネシアがこのまま、その姿勢を保つならば、それは国際保健規則で決定されている事項を無視することになる、と語っている。

「私は思うに、それは国際保健規則を承認したインドネシアを含めた193カ国が、鳥インフルは注目すべき危険な感染症であるという認識と、それ故発生した時の詳細報告は義務であるという認識を抱いていなければならないという、立場上の責任感の問題である」、と同氏はジュネーブから電話で語った。

「しかし、再度強調するが、我々はインドネシア保健相の発表を確認していないので、あくまでも推測として語っているだけだ。もし**本当なら極めて重大な問題**に発展するかも知れない」

ミネソタ大学の「感染症研究と政策」センター長のマイケル・オスターホーム博士も同様に、当惑の意を表している。

「これは公衆衛生上の危機を避ける上で陥りやすい、極めて危険な状況だ」、と同博士はミネアポリスから電話で答えた。

「SARSの際に、状況を全て公開しないことで、何が起きるか周知しているはずだ」

2003年末以来、世界15カ国で383人のH5N1鳥インフル患者が報告されている。そして241人が死亡している。致死率は63%に上っている。

インドネシアは世界の報告数の三分之一を占め、さらに致死率は81%と際だって高い。

同国は2005年7月以来、133人が患者として確定され、108人が死亡している。